

# 65歳以上では余暇時間が 1日の3分の1を超える

## はじめに

従来、雇用や所得など、国民生活の経済的な側面についての統計は比較的充実しているが、非経済的な側面については必ずしも十分な資料はなかったため、これら資料を補い、国民の福祉の向上に役立てる基礎資料を得るため始められたのが社会生活基本調査である。

この調査は、国民の1日の生活時間の配分及び自由時間に関する基礎資料を得ることを目的として、昭和51年10月に第1回の調査が行われ、第2回目の調査は56年10月に実施された。その調査結果が結果原票として総理府統計局より公表されたもので、これに基づき本県における結果の概要を作成紹介するものである。

## 1. 1日の生活時間の配分

### (1) 県民の余暇時間は5時間27分

県民(15歳以上人口)の1日の生活活動を「睡眠」「食事」「身の回りの用事」からなる生理的に必要な活動を1次活動。「仕事」「学業」「通勤・通学」「家事・育児」「買物」からなる社会生活を行ううえで義務的な性格の強い活動を2次活動。「趣味・娯楽」「スポーツ」「休養・くつろぎ」「社会奉仕」などの余暇時間における活動を3次活動に分け、これらの活動への時間配分を1日当たりの時間数でみると、1次活動が10時間53分、2次活動が7時間40分、3次活動が5時間27分となっている。

### (2) 2次活動時間は女子が長く、余暇時間は男子が長い

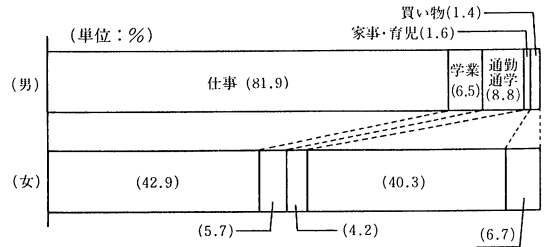
男女別に生活時間の配分をみると、1次活動時間は男女共に10時間53分と等しいが、2次活動時間は男子が7時間23分であるのに対し、女子は7時間56分と女子の方が33分長く、余暇時間(3次活動時間)は男子が5時間44分と女子の5時間11分に比べて男子の方が33分長くなっている。

2次活動の内訳をみると、男子は7時間23分のうち、仕

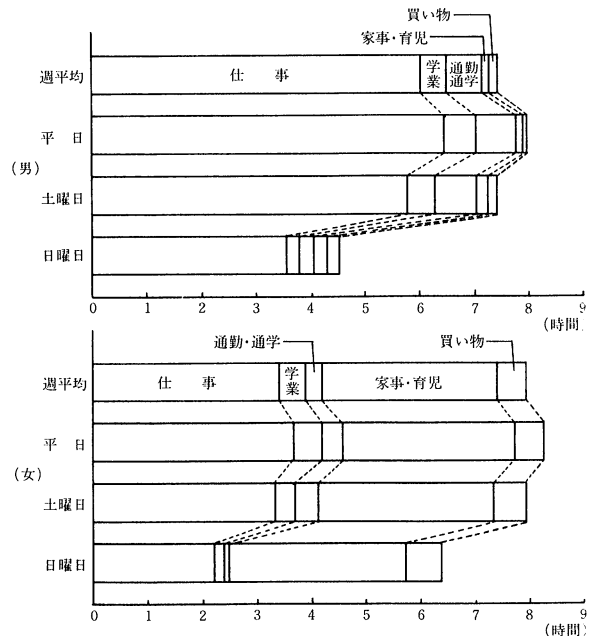
表一 1 男女別1日の生活時間の配分 (時間、分)

男女別	区分	(時間、分)		
		1次活動	2次活動	3次活動
男	計	10.53	7.40	5.27
女	計	10.53	7.56	5.11
男	男	10.53	7.23	5.44
女	女	10.53	7.56	5.11

図一 1 男女別2次活動時間



図一 2 男女・曜日別2次活動時間



事が6時間03分(2次活動全体の81.9%)を占め、「通勤・通学」の39分を合わせると2次活動全体の90.7%となっている。一方、女子は7時間56分のうち、「仕事」が3時間24分(42.9%)、「家事・育児」が3時間12分(40.3%)であり、「仕事」と「家事・育児」がほぼ同じ割合を占めている。

男女の2次活動時間の違いを曜日別に比較してみると、女子の方が男子より、平日は17分、土曜日は33分、さらに日曜日は1時間49分長くなっている。この2次活動の男女の差は、女子の「家事・育児」に費やす時間が日曜日も平日とほとんど差がないことによるものである。

社会生活基本調査結果(茨城県分集計結果)の概要

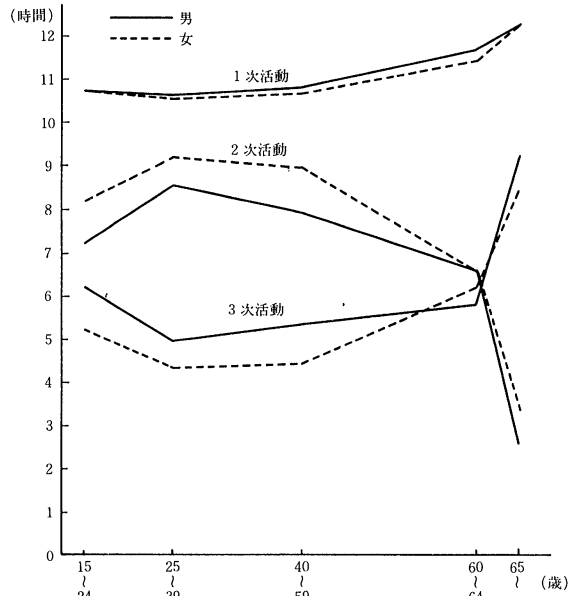
(3) 2次活動時間のピークは男女共に20歳代後半から30歳代

年齢階級別に生活時間の配分をみると、1次活動時間は60歳を過ぎると若干長くなるが、年齢による活動時間の変化は2次活動時間の増減に対応した3次活動時間の増減に現われている。

男子の2次活動時間は20歳代後半から30歳代にかけて増加し、この年代の8時間31分をピークにして以後緩やかに減少を始め、60歳を過ぎると急速に減少している。一方、女子の2次活動時間の年齢別傾向は男子と似ているが、内容的には「家事・育児」にかかる時間が20歳代後半から30歳代にかけての4時間34分をピークに、以後徐々に減少し、その時間的ゆとりのできた時間を働きに出るケースが、40～59歳代の「仕事」の時間4時間42分と「仕事」の活動時間のピークとなって現われているものと考えられる。

また3次活動時間は、男女共に高年齢になると2次活動の減少に対応して長くなっており、特に65歳以上では男子

図一3 男女・年齢別 1次, 2次, 3次活動時間



表一2 男女・有業・無業別2次活動時間 (時間・分)

区分	男女別	男			女		
		総数	有業	無業	総数	有業	無業
2次活動		7.23	8.04	3.59	7.56	9.29	6.04
仕事		6.03	7.12	0.22	3.24	5.58	0.21
学業		0.29	0.01	2.48	0.27	0.01	0.58
通勤・通学		0.39	0.41	0.25	0.20	0.24	0.15
家事・育児		0.07	0.06	0.14	3.12	2.40	3.51
買い物		0.06	0.06	0.06	0.32	0.26	0.39

注) 内訳の総時間数は2次活動時間数と一致しない。

表一3 曜日別2次活動時間の内訳 (時間・分)

曜日	男女別	総計	仕事	学業	通勤・通学	家事・育児	買い物
平日	男	7.57	6.35	0.32	0.42	0.04	0.04
	女	8.14	3.40	0.32	0.22	3.11	0.30
	平均	8.06	5.06	0.32	0.32	1.39	0.17
土曜日	男	7.23	5.47	0.30	0.46	0.12	0.08
	女	7.56	3.21	0.20	0.25	3.14	0.35
	平均	7.40	4.33	0.25	0.36	1.45	0.21
日曜日	男	4.34	3.35	0.13	0.15	0.16	0.15
	女	6.23	2.11	0.10	0.06	3.18	0.39
	平均	5.30	2.52	0.11	0.11	1.49	0.27

9時間09分、女子8時間25分と、いずれも1日の3分の1を超えた時間となっている。

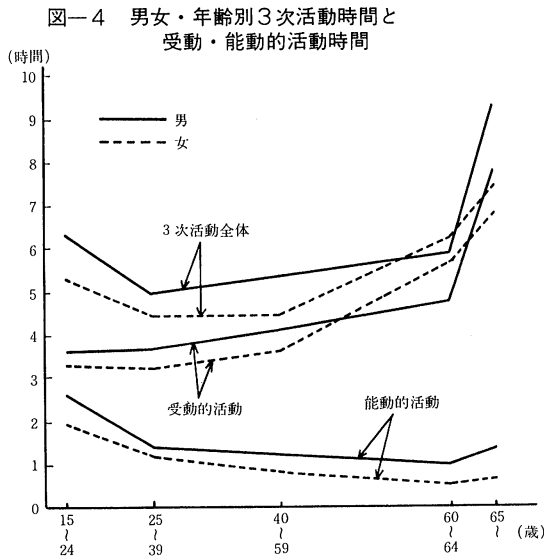
(4) 能動的3次活動時間は

男子が各年齢階級ともに女子を上回る

3次活動をその内容によって「学習活動」「趣味・娯楽」「スポーツ」「奉仕活動」「交際」及び「移動」を合わせたものを能動的3次活動とし、「テレビ・新聞・ラジオ・雑誌」「休養・くつろぎ」「受診・療養」及び「その他」を合わせたものを受動的3次活動とすると、受動的3次活動時間は男女共に4時間10分前後でほとんど男女差はないが、能動的3次活

表一4 男女・年齢別、能動及び受動的3次活動時間 (時間・分)

年齢別(歳)	性別区分	男		女	
		受動的	能動的	受動的	能動的
15～24		3.36	2.35	3.16	1.57
25～39		3.33	1.22	3.09	1.11
40～59		4.03	1.14	3.36	0.50
60～64		4.47	1.00	5.32	0.33
65～		7.38	1.29	6.39	0.43
総計		4.11	1.33	4.05	1.06



動時間は男子が1時間33分、女子は1時間06分と男子の方が27分多い。これを年齢別にみると、受動的3次活動では、女子は40歳を過ぎた頃から活発になるが、男子は60歳を過ぎてからとなり、また能動的3次活動は各年齢ともに男子の方が女子を上回っている。

## 2. 年間を通じての学習活動

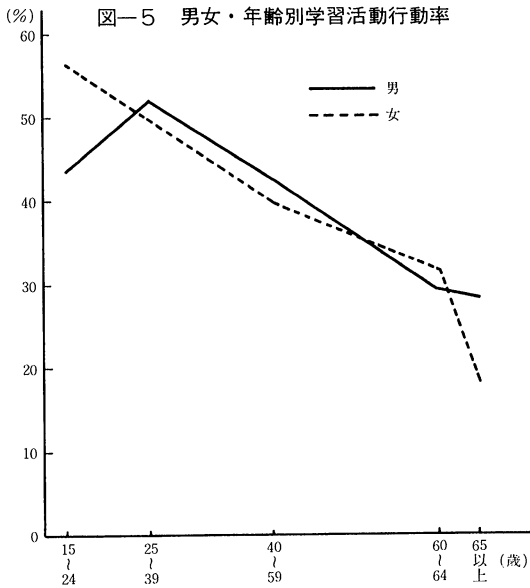
(1) この1年間に学習活動をした者は  
15歳以上人口の42.7%

過去1年間に何らかの学習活動をした15歳以上の者は、82万人で15歳以上人口の42.7%となっている。これを男女別にみると、男子のうち43.3%、女子のうち42.1%が学習活動をしており、わずかに男子の方が高くなっている。

この割合を更に年齢階級別にみると、男子は25～29歳代が最も高く、女子は15～24歳代が最も高くなっており、以後年齢の上昇とともに、この割合は低下している。15～24

表一5 男女・年齢・行動の種類別1日の生活時間(週平均)

内 訳 年 齢	1 次 活 動				2 次 活 動					3 次 活 動				
	睡 眠	食 事	身の回りの用事	計	仕 事	学 業	通勤・通学	家事・育児	買い物	計	趣味・娯楽	スポーツ	奉仕的活動	交 際
総 数	8.06	1.50	0.59	10.53	4.42	0.28	0.29	1.41	0.19	7.40	0.27	0.08	0.02	0.24
15～24歳	7.58	1.40	1.00	10.39	3.11	2.47	0.59	0.31	0.12	7.39	0.33	0.19	0.01	0.40
25～39	7.49	1.49	0.54	10.32	5.35	0.01	0.30	2.18	0.27	8.50	0.28	0.09	0.02	0.18
40～59	7.54	1.53	0.57	10.44	5.53	—	0.25	1.46	0.19	8.24	0.22	0.03	0.01	0.24
60～64	8.36	2.00	0.57	11.33	4.01	—	0.12	2.01	0.16	6.30	0.23	0.01	0.03	0.14
65歳以上	9.19	1.57	0.59	12.15	1.31	—	0.04	1.19	0.08	3.02	0.30	0.03	0.04	0.22
男	8.15	1.47	0.51	10.53	6.03	0.29	0.39	0.07	0.06	7.23	0.31	0.11	0.03	0.28
15～24歳	8.10	1.37	0.51	10.38	3.26	2.47	0.49	0.04	0.06	7.11	0.37	0.26	0.02	0.52
25～39	8.02	1.43	0.49	10.35	7.32	0.01	0.44	0.06	0.09	8.31	0.27	0.14	0.03	0.21
40～59	8.07	1.51	0.50	10.48	7.04	—	0.39	0.06	0.04	7.52	0.27	0.04	0.01	0.25
60～64	8.37	2.08	0.55	11.40	5.40	—	0.21	0.31	0.02	6.35	0.30	0.02	0.06	0.17
65歳以上	9.21	1.56	0.55	12.12	2.16	—	0.09	0.10	0.04	2.39	0.48	0.03	0.05	0.27
女	7.57	1.53	1.03	10.53	3.24	0.27	0.20	3.12	0.32	7.56	0.23	0.04	0.01	0.19
15～24歳	7.46	1.44	1.10	10.39	2.55	2.48	1.08	0.58	0.18	8.08	0.29	0.12	0.01	0.27
25～39	7.35	1.54	1.00	10.29	3.33	0.00	0.16	4.34	0.46	9.10	0.30	0.04	0.02	0.15
40～59	7.41	1.54	1.04	10.39	4.42	—	0.11	3.27	0.35	8.54	0.17	0.02	0.00	0.22
60～64	8.34	1.55	0.58	11.27	2.42	—	0.05	3.13	0.27	6.27	0.17	0.00	0.01	0.12
65歳以上	9.17	1.58	1.02	12.17	0.59	—	0.01	2.06	0.12	3.18	0.17	0.03	0.03	0.18



歳までは女子の方が高いが、25～39歳代では逆転し60歳以降は急激に女子の方が低下する。

(2) 学習内容は男子では芸術・文化・教養

女子では家事・家政などが盛んである

学習内容別に学習状況を見ると、男子のうち芸術・文化・教養関係を学習した者は14.4%で最も多く、続いて時事問題12.6%、商業・実務・ビジネス関係12.5%、工業技術関係12.1%などとなっており、一方、女子では家政・家事が25.3%と最も多く、これに続いて芸術・文化・教養関係17.2%、理容・調理等10.1%、教育・社会福祉10.0%などとなっている。

図-6 学習の内容別行動率

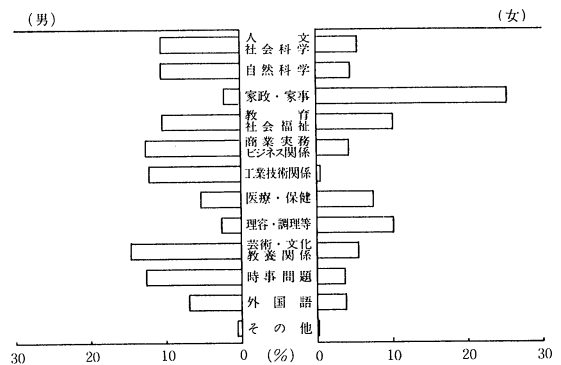


表-5 つづき (1日当たりの時間、分)

3 次 活 動						
移動 (通勤・通学を除く)	テレビ・新聞・誌	休養・くつろぎ	受診・療養	その他	学習活動 (学業以外)	計
0.08	2.15	1.35	0.08	0.12	0.10	5.27
0.11	2.01	1.14	0.01	0.11	0.31	5.42
0.11	2.00	1.10	0.01	0.10	0.07	4.38
0.07	2.03	1.30	0.05	0.11	0.06	4.53
0.04	2.50	2.00	0.11	0.12	0.00	5.58
0.02	3.33	3.18	0.28	0.20	0.03	8.43
0.10	2.23	1.34	0.05	0.11	0.10	5.44
0.11	2.06	1.14	0.01	0.15	0.27	6.11
0.11	2.11	1.14	0.00	0.08	0.06	4.54
0.10	2.12	1.33	0.07	0.11	0.07	5.19
0.05	2.42	1.59	0.01	0.05	0.00	5.46
0.03	3.56	3.04	0.19	0.17	0.03	9.09
0.07	2.08	1.37	0.06	0.13	0.11	5.11
0.12	1.55	1.13	0.00	0.08	0.36	5.13
0.11	1.49	1.06	0.02	0.12	0.09	4.21
0.04	1.54	1.28	0.03	0.11	0.05	4.26
0.03	2.56	2.00	0.18	0.18	—	6.06
0.02	3.16	3.27	0.35	0.21	0.03	8.25

3. 年間を通じてのスポーツ活動

(1) 過去1年間にスポーツを行った者は

15歳以上人口の44.1%を占めている

過去1年間に何らかのスポーツを行った15歳以上の者は850万人で、15歳以上人口の44.1%を占めている。この割合を男女別にみると、男子57.8%、女子35.6%と男子の方が高い。さらに、これを年齢別にみると、男女共に15～24歳代が最も高く、男子では80.9%、女子では65.8%となっており、年齢の上昇と共にその割合は低下している。しかし、男子では30歳代までは低下は緩やかであり、40歳代、50歳代で低下が大きい。一方、女子では出産・育児などの影響により、20歳代後半から大きく低下しており、また、どの年齢層でも、男子の半分程度となっている。

# ■ 調査から

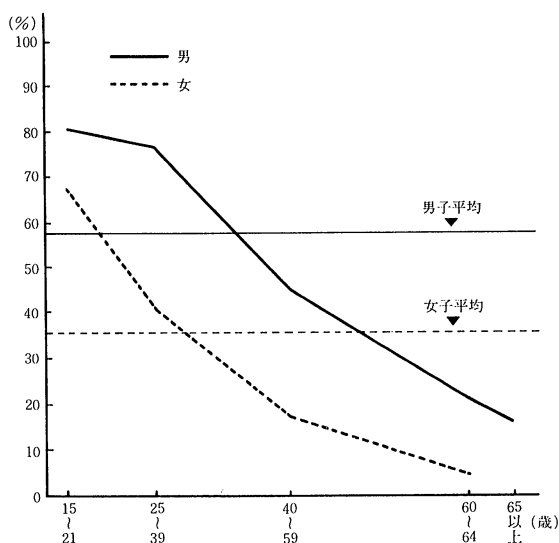
表一六 男女・年齢・学習活動の種類別行動者率

(単位：%)

項目		総数	人文・社会科学	自然科学	家政・家事	教育・社会福祉	商業・実務・ビジネス	工業技術	医療・保健	理容・調理	芸術・文化・教養	時事問題	外国語	その他
男女・年齢	計	42.7	8.0	7.4	13.9	10.2	8.4	6.2	6.5	6.8	15.8	8.1	5.4	6.3
	男	49.3	15.6	11.8	16.1	9.8	10.1	6.5	6.2	6.0	7.8	5.2	13.4	0.6
	女	50.5	6.4	8.5	16.9	12.0	11.4	6.9	7.1	7.5	7.7	7.3	6.0	0.2
	計	40.9	7.9	6.3	13.8	10.9	7.7	6.3	6.9	7.5	15.5	10.4	3.7	0.4
	60～64	30.5	5.6	4.7	8.9	7.6	4.1	1.5	4.6	6.9	13.6	11.2	—	—
	65歳以上	22.5	3.4	2.5	5.3	5.0	1.6	0.1	4.9	1.6	9.7	6.5	0.1	0.3
男	計	43.3	10.5	10.4	2.1	10.3	12.5	12.1	5.2	3.4	14.4	12.6	6.9	0.5
	15～24歳	43.1	15.9	11.6	3.0	6.9	9.4	12.4	3.7	4.6	14.4	7.8	12.7	0.7
	25～39	51.1	9.6	13.0	1.7	10.1	17.6	17.2	5.1	3.8	17.0	11.8	8.3	0.4
	40～59	42.1	10.0	9.2	1.8	11.5	12.6	11.6	6.1	3.1	13.0	15.2	5.6	0.7
	60～64	29.1	9.2	7.2	1.3	11.4	7.4	3.3	5.3	3.1	14.4	16.0	—	—
	65歳以上	27.9	6.5	5.0	3.3	9.4	3.0	0.3	4.9	1.5	10.3	13.3	0.2	0.2
女	計	42.1	5.6	4.6	25.3	10.0	4.4	0.6	7.6	10.1	7.2	3.7	3.9	0.1
	15～24歳	55.7	15.3	12.1	29.5	10.6	10.9	1.1	8.8	11.5	21.4	2.6	14.1	0.3
	25～39	49.9	3.1	3.8	32.6	13.7	5.0	0.3	8.3	11.3	18.5	2.6	3.5	0.1
	40～59	39.6	5.5	3.5	26.0	10.2	2.8	0.5	7.7	11.9	18.0	5.6	1.7	—
	60～64	31.6	3.0	2.8	15.0	4.0	1.4	—	10.0	13.0	13.0	7.3	—	—
	65歳以上	18.7	1.0	0.6	6.7	2.0	0.6	—	1.7	9.2	9.2	1.7	—	0.1

注) 概数回答のため、内訳の合計は総数を超える。

図一七 男女・年齢別スポーツの行動者率



## (2) 男子は「野球・ソフトボール」

女子は「バレーボール」が最も多い

過去1年間に行ったスポーツの種目をみると、最も多いのは「野球・ソフトボール」で42.4万人(15歳以上人口の22.0%)が行っており、次いで「バレーボール」20.4万人(10.6%)、卓球16.3万人(8.5%)、「ゴルフ」16.0万人(8.3%)などとなっている。これを男女別にみると、男子では「野球・ソフトボール」が36.7万人(38.7%)と圧倒的に多く、これに「ゴルフ」15.1万人(15.9%)、卓球10.0万人(10.5%)と続いている。また女子では「バレーボール」が12.2万人(12.5%)と最も盛んであり、これに「テニス」6.6万人(6.7%)、「卓球」6.3万人(6.5%)が続いている。

これを年齢階層別にみると、男子では「野球・ソフトボール」がどの年齢層でも多く50歳代までの各年代で最もよく行われている。それ以外の種目では15～24歳では「水泳」が多く、25～39歳、40～59歳代で「ゴルフ」が盛んで

表一七 男女・スポーツの種目別行動者数及び行動者率

種目		野球・ソフトボール	バレーボール	バスケットボール	卓球	テニス	ゴルフ	水泳	スキー	アイススケート	柔道・剣道	その他
行動者数 (万人)	男女計	42.4	20.4	5.5	16.3	14.0	16.0	14.8	9.2	7.1	4.2	16.2
	男	36.7	8.2	3.1	10.0	6.3	15.1	9.3	6.4	4.5	3.8	9.9
	女	6.0	12.2	2.4	6.3	6.6	0.9	5.5	2.8	2.6	0.4	6.3
行動者率 (%)	男女計	22.0	10.6	2.9	8.5	7.3	8.3	7.7	4.8	3.7	2.2	8.4
	男	38.7	8.6	3.3	10.5	7.8	15.9	9.8	6.8	4.7	4.0	10.4
	女	6.2	12.5	2.4	6.5	6.7	1.0	5.8	2.9	2.7	0.5	6.5

注) 同一人物が数種目に含まれる場合もある。

表一八 男女・年齢別主なスポーツの行動者率

種目		野球・ソフトボール	バレーボール	卓球	テニス	ゴルフ	水泳	スキー	
行動者率 (%)	男	計	38.7	8.6	10.5	7.8	15.9	9.8	6.8
		15～24歳	53.3	19.1	19.4	19.1	6.4	21.6	9.4
		25～39	57.9	11.0	13.9	10.3	27.8	12.1	13.4
		40～59	27.0	4.4	6.7	3.1	14.6	5.3	1.8
		60～64	7.0	0.3	4.0	—	4.0	1.1	—
		65歳以上	2.7	—	—	—	1.8	0.8	—
	女	計	6.2	12.5	6.5	6.7	1.0	5.8	2.9
		15～24歳	14.0	29.9	16.3	26.6	2.3	16.1	11.1
		25～39	8.7	16.7	8.7	6.3	1.0	7.1	3.2
		40～59	2.7	6.8	3.1	1.2	1.0	2.2	0.3
		60～64	—	—	—	0.2	—	1.3	—
65歳以上		0.4	0.8	0.5	—	—	0.8	—	

ある。

一方、女子では15～24歳代では「バレーボール」が最も多く、「テニス」がこれに次いで多い。また「バレーボール」は50歳代まで他のスポーツを上回っている。

#### 4. 年間を通じての旅行

(1) 過去1年間に1泊以上の旅行をした者は15歳以上人口の72.3%

過去1年間に1泊以上の国内観光旅行をした15歳以上の

者は139.4万人で15歳以上人口の72.3%を占めている。この割合を男女別にみると、男子は78.1%、女子は66.6%となっており男子の方が高い。また過去1年間に海外旅行をした者は5.0万人で、15歳以上人口の2.6%を占めている。

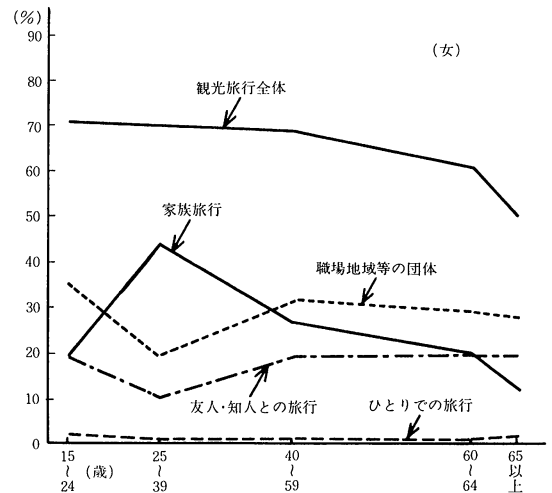
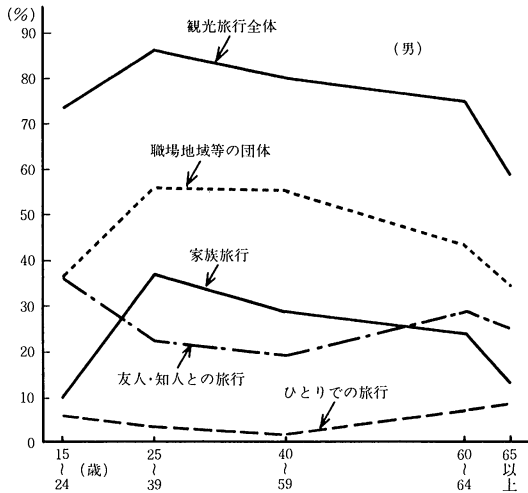
表一九 男女・旅行の種類別行動者率

(単位：%)

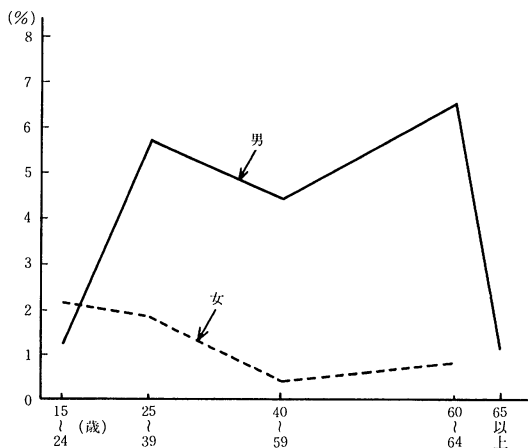
種類	国内旅行							海外旅行
	観光旅行						その他旅行 (帰省・出張など)	
	総数	家族旅行	職場・地域等の 団体旅行	友人・人の 知人の旅行	ひとりでの 旅行	その他		
男女計	72.3	27.8	58.5	21.8	2.6	2.9	17.5	2.6
男	78.1	26.8	49.5	24.3	3.7	3.1	21.1	4.2
女	66.6	28.8	27.9	19.4	1.4	2.8	14.1	1.1

注) 同じ人が2種類以上の旅行を行った場合は、それぞれの種類の行動者として数えてある。

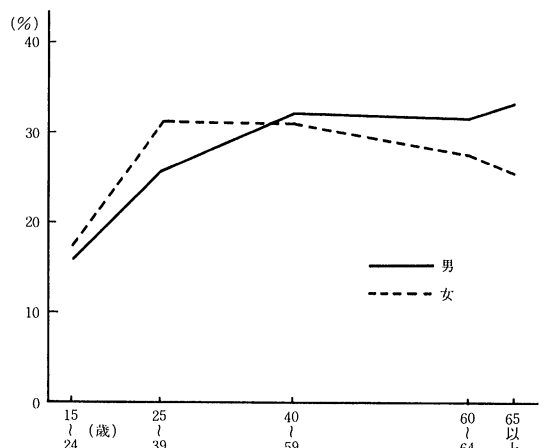
図一八 男女・年齢別団体旅行の行動者率



図一九 男女・年齢別海外旅行の行動者率



図一〇 男女・年齢別社会奉仕活動の行動者率



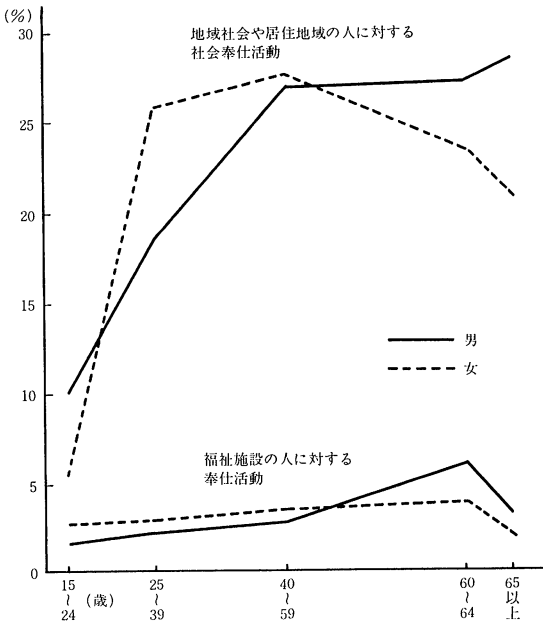
国内観光旅行について、男女の旅行、形態別に旅行をした者の割合をみると、男子では「職場・地域等の団体旅行」が49.5%と最も多く、以下「家族旅行」26.8%、「友人・知人との旅行」24.3%となっている。一方、女子では「家族旅行」の28.8%を最高に「職場・地域等の団体旅行」27.9%、「友人・知人との旅行」19.4%と続いている。女子は「家族旅行」が男子より多く、他は男子より少ない。

(2) 若年層では「友人・知人との旅行」が主婦は「家族旅行」が多い

国内観光旅行について過去1年間に行った者の割合を男女年齢階級別にみると、男子では25～39歳代で85%強とかなり多く、年齢の上昇とともに緩やかに減少している。女子では15～24歳代が71%と最も高く、年齢の上昇に伴い逐次緩やかに減少を示している。

旅行を形態別にみると、「職場・地域等の団体旅行」が38

図一 11 男女・年齢別主な社会奉仕活動の行動者率



%と最も多く、特に20歳代後半から50歳代の働き盛りの男子は、55%以上と多くなっている。女子は20歳代後半から30歳代は「家族旅行」が多く、また女子の若年層での「友人・知人との旅行」も多い。

また海外旅行をした者の割合についてみると、男子では15～24歳では1.2%であるが、以後大きく増加してM字型となり、60歳前半をピークに減少する。女子では20歳代前半で2.2%とピークとなり以後急速に減少する。男子が全体的に女子よりも海外旅行率が高いのは、女子よりも出張など仕事に関連した海外旅行の機会が多いためと考えられる。

## 5. 年間を通しての社会奉仕活動

(1) 社会奉仕活動は女子は30歳代、男子は60歳代で盛ん

この1年間に社会奉仕活動をした15歳以上の者は53.0万人で、15歳以上人口の27.5%を占めている。この割合を男女別にみると、男子27.2%、女子27.7%と大差はない。

社会奉仕活動をした者の割合を年齢階級別にみると、男子では若年層は少ないが年齢とともに増えて60～64歳で31.3%、65歳以上で32.9%となっている。女子では最も割合が

高いのは25～40歳代で31%であり、それ以後緩やかに減少している。男女のこのような特徴は男子では年齢とともに徐々に奉仕活動の機会が増え、また女子では子育てとともに地域社会との接触が少なくなる事情等が反映しているものと考えられる。

(2) 奉仕活動の殆んどが

地域社会や居住地域の人に対する奉仕

社会奉仕活動を行った者の割合を奉仕活動の種類別にみると、「地域社会や居住地域の人に対する奉仕が22.1%と最も高く、以下「一般の人に」の5.9%、「福祉施設の人に」の2.8%等となっている。

これを男女年齢階級別にみると、地域社会や居住地域の人に対する奉仕は、社会奉仕活動全体についてほぼ同じく、男子では60～64歳、女子では30～39歳をピークにしたパターンとなっている。

### 【付 表】

この調査では、1日の生活行動を18種類の行動に分類している。これを大きく3区分にまとめ、生理的に必要な活動を「1次活動」、「社会生活を行う上で義務的な性格の強い活動を「2次活動」、これら以外の活動で各人の自由につかえる時間におけるものを「3次活動」と呼んでいる。18種類の行動とその3区分は次のとおりである。

1次活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○睡眠</li> <li>○食事</li> <li>○身の回りの用事</li> </ul>	
2次活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仕事(収入を伴う仕事)</li> <li>○学業(学生が学校の授業やそれに関連して行う学習活動)</li> <li>○通勤・通学</li> <li>○家事・育児</li> <li>○買い物</li> </ul>	
3次活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習活動(上記の学業以外のもの)</li> <li>○趣味・娯楽</li> <li>○スポーツ</li> <li>○奉仕の活動</li> <li>○交際</li> <li>○移動(通勤・通学を除く)</li> <li>○テレビ・ラジオ・新聞・雑誌</li> <li>○休養・くつろぎ</li> <li>○受診・療養</li> <li>○その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>能動的 3次活動</li> <li>受動的 3次活動</li> </ul>

なお、同時に2種類以上の行動をした場合には、そのうちの主なものひとつだけが把握された。

(統計課・人口労働グループ)